

「奈良市所在の県立高校が築き上げた大学進学を確保するためにも、平城高校の存続を求める」請願書

付託委員会	文教くらし委員会	紹介議員	山村 幸穂	
<p>《要旨》</p> <p>平成30年10月5日に可決された『奈良県立高等学校設置条例の一部を改正する条例』（以降、本件条例）により、奈良市所在の県立高校7校のうち平城高校、登美ヶ丘高校、西の京高校の3校は廃校となるが、教育委員会ならびに県議会において「これら3校が築き上げた大学進学を確保する対策」は一切議論がなされなかった。従って、議論ならびに対策を求める。特に、大学進学の実績が高い平城高校の存続を求める。以降、本請願の理由について説明をする。</p> <p>①大学への進学実績を確保する重要性について 現役中学生やその保護者にとっての高校選択の重要なポイントの1つは、将来の自己実現の可能性を高める“大学への進学実績”である。しかし本件条例の執行により、大幅に大学進学を失うこととなる。特に、奈良市所在の平城高校、登美ヶ丘高校、西の京高校の大学進学者数は多く、また、この3校に進学する奈良市在住の中学生は、毎年、募集定員の半分弱を占めるため、奈良市民への影響は特に大きい。 国立大学はもとより、私立大学への進学、その中でも関西圏の私立大学においては関関同立（関西大学、関西学院大学、立命館大学、同志社大学）への進学は、将来の夢の実現の可能性を広げる。 なぜならば、数多くの専門分野の学科を保有するだけでなく、AIやIoTなどの技術進化とグローバル化により、目まぐるしく変化する社会に適応できる人材育成のために、年々、その教育カリキュラムが進化しているためである。 これらの大学が輩出する多くの卒業生が、国会議員、県議会議員、先端技術の研究者、経営におけるグローバルリーダーといった日本経済を支える重要な役割を担っている実績が、教育環境の重要性と効果を証明している。つまり、これらの大学への進学機会を失うことは、奈良県民にとって大きな損失である。当然、日本経済への影響も大きい。</p> <p>②奈良市所在の県立高校の大学進学実績について 次に、奈良市所在の各県立高校が発表した最新の進学実績について述べる。国公立大学への進学は奈良高校290名、平城高校80名、高円高校13名、登美ヶ丘高校4名、西の京高校1名、山辺高校1名である。ここで特筆すべきは奈良高校と平城高校の2校のみで全体の95.2%を占めている事実である。 また、私立大学の合格実績は、奈良高校は699名、平城高校は1297名と多い。関関同立の合格実績に限定すると、奈良高校で465名、平城高校で321名と全体の93.1%（奈良高校55.1%、平城高校38.0%、その他7%）を占める。 平城高校に関して言えば、来年度より生徒募集が停止されるため、奈良県民が国立大学、有名私立大学への進学機会を大きく失うことに繋がる。具体的には国公立大学への進学80名、私立大学への合格実績1297名、このうち関関同立321名を失うことになる。</p> <p>③本件条例における問題点と対策について 本件条例で県が目指す、AIやIoTの技術進化やグローバル化に対応した人材輩出という観点では、関関同立に多くの学生が進学する平城高校についてはその役割を今も尚、十分に果たしていると言える。普通科による進学が多様性への対応と、進学人数を考慮すると、当然、国際科という進学も一様で定員も半分となる国際高校では不十分であり、別途対策が必要であることは言うまでもない。 また、本件条例の決定に至る過程において、先述の国公立大学、私立大学進学の実績を継承するための施策について、また、将来の奈良を支える子どもたちの大学進学を大きく失うことについて、全く議論がなされていないことは大きな問題である。 繰り返しになるが、特に、平城高校の廃校は大学進学を大きく影響を与えるため、今回の高校再編計画では平城高校は廃校とせず、他校も含めて段階的に生徒数を減少させながら少子化対策を進めていくことが重要である。</p> <p>④対策の合理的理由について 平成30年9月第333回奈良県定例議会で、吉田奈良県教育長は「学校の活力を維持するためには、クラス数を維持する必要がある」と答弁をしている。しかし、事実はこれとは真逆の調査結果が得られている。平成29年度9月1日の知事説明において、吉田教育長自ら「データ上では、学校の活力とクラス数と関係なかった」と結論づけている。 つまり、今まで、吉田教育長が答弁を繰り返してこられた、「少子化対策」と「学校の活力維持」の両立のために学校数の削減しかないという理由に根拠は無く、学校数を維持しながら生徒数を調整するだけで少子化への対応ができるということは強調しておきたい、本請願の対策方法のひとつとして実現を頂きたい。また、平城高校を廃校とする理由は何一つない。 以上が請願理由であり、奈良市所在の県立高校が築き上げた大学進学を確保するためにも、平城高校の存続を求める。</p>				
<p>審査結果</p>				
<p>継続審査</p>	<p>採択</p>	<p>不採択</p>	<p>一部採択</p>	<p>趣旨採択</p>
<p>令和元年10月7日</p>				